

The 67th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」 事後報告書

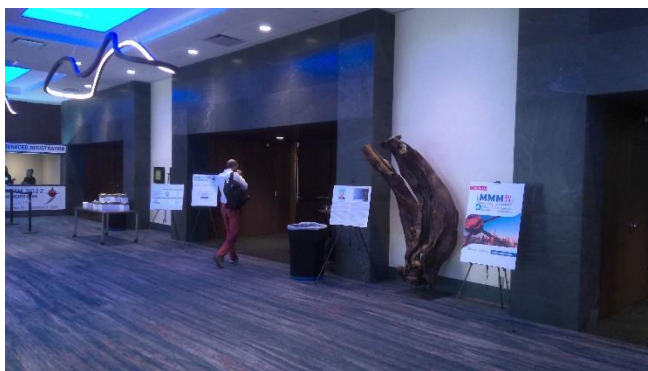
相関基礎科学系 博士課程3年 榊原 烈桜（上野研究室）

私は「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」を頂き、2022年10月31日～11月4日にアメリカのミネアポリスで開催されたIEEEの国際学会であるMMMに参加しました。MMMは、磁性体とその応用に関する学会であり、磁気学、磁気材料、磁気記録、磁気センシング、磁気デバイス、磁気医療、磁気浮上、磁気制御などの分野において、世界中の専門家が集まる学術会議です。私は、この学会の3日目に「Ferromagnetic hysteresis loop induced by electric field-effect on Pt/CoFe₂O₄」というタイトルで口頭発表を行いました。

私自身の発表内容は、電圧により磁性を制御するといったもので発表会場はそれなりに埋まり関心を引けたようでした。質問の聞き取りに苦勞することもありましたが、司会の大矢忍先生（工学系研究科）にかなり助けていただくことで発表を終えることができました。また発表後にも発表後にもいくつか質問をいただき非常に有意義な議論を行うことができました。

そしてこの学会では、磁気技術に関する専門家の方々と交流することもできました。特に、日比野有岐さん（産総研）をはじめとした国内研究者の方々とは、共通の研究テーマについて話し合い、意見交換をすることができました。また学会外でも、夜に食事をして研究について雑談をする機会がありました。その中で、研究者が日々研究に向き合う上でどのような視点で取り組んでいるかを聞くことができ、非常に有益であったと感じました。普段は学術的な発表に限られがちな内容について、気軽に交流することができたことは、私にとって貴重な経験となりました。

最後に、この学会参加にあたり、大学からの助成に深く感謝しています。当時は円安の状況が続き、交通費や宿泊費などが高額化していました。大学からの助成がなければ、私がこの学会に参加することは困難だったと思います。このような状況の中で、大学からの支援をいただいたことに心から感謝しています。



[写真] 会場入口：

ホテルに直結しており、便利な立地でした。また、会場内では飲み物も配っていて、日本の学会とはかなり雰囲気が異なっていました。アメリカの学会では、参加者の方々が交流しやすいような配慮がされているように感じました。